

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02665

研究課題名(和文) 中国雲南省大理白族の白文資料の基礎的研究 白文語彙・用例の収集と解読法の確立

研究課題名(英文) The Basic study on Baiwen texts-Collection of Baiwen vocabulary, examples and Establishment of the decoding method of Baiwen-

研究代表者

立石 謙次 (TATEISHI, Kenji)

東海大学・文化社会学部・准教授

研究者番号：50553426

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国雲南省に居住する白族が用いる白文(ペー文)語彙の収集を目的としている。白文は漢字を用いて白族語を書き記す表記方法で、白族のその先祖たちは8世紀後半には漢字を用いていきた。そして漢字を用いて自らの言語を記録していた。本研究の目的は以下の2点である。すなわち1.白族が白文を書く際に、どのような漢字が用いられるのか。そして2.どのようにして漢字を用いて白語を文章として表現するのかという点である。白文はこれまで白族の間で普及している表記法でなく、わずかに白族の民間芸能や哀悼文などにのみ用いられる表記法である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は以下の諸点である。

1) 従来皆無であった語彙集・用例集を出版することにより、幅広い研究者が白文の学術的・文学的価値を考察するための研究に着手できる基礎を確立できる。2) 白文資料の翻訳や語彙の分析を通して、中国西南少数民族の中国の文芸・芸能などの受容の問題の一端を明らかにできる。3) 日本を含む中国周辺の国家・民族がどのように「漢字系文字」を創り上げてきたかという歴史的な問題に一定の知見を提供できる。4) 語彙集・用例集を制作により、白族自身にも白文の価値を再評価してもらい、文化保護の機運を高める一助になることを期待できる。

研究成果の概要(英文)：The study try to collect examples of Bai characters (Bai wen) or the characters written by the Bai people, an ethnic group in Dali, Yunnan Province, China. Bai wen is a method to write the Bai language using Chinese characters, and the Bai people and their ancestors have used written Chinese characters since the late 8th century .They recorded their language using Chinese characters. The intention of the study is to elucidate the following two problems. First, when the Bai people write Bai wen, which Chinese characters are chosen? Second, how are Bai language words that are written in Chinese characters expressed as sentences? Bai wen has still not become a widely used writing method. Today, Bai wen is reserved for recording the lyrics of folk songs or dirges performed by the Bai people.

研究分野：少数民族文学と文字表記

キーワード：雲南省 白族 白文

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中国雲南省大理地方を中心に住む白族(人口約180万:2010)は、独自の白語(ペー語)を話す。白族とその先祖は独自の文字をもたず、文章には漢文(漢語)を用いてきた。ただし一部の地域、宗教職能者や後述する「大本曲」などの民間芸人の間では漢字を利用し白語を書き表す「白文」という表記方法を用いられた。白文の起源は史料上、雲南に興った南詔国(8世紀~10世紀初頭)に類似の表記法あったことが確認できる。また大理地方には、明清時代の白文碑刻がなお現存している。白文は限定的に用いられてきたため、一般の白族は、この表記方法を知らない。

白族以外の中国西南少数民族の中にも、漢字を利用して自民族語を表記する例はある。しかし白文は、文献史料や碑文により歴史的な形成過程の考察がある程度可能であり、この点において重要である。

本研究で考察対象とする白族民間芸能の「大本曲」は歌い手と三絃(三味線)の伴奏による曲芸(かたりもの)である。一つの演目は3時間以上かけて歌われ、その曲本は漢語と白文とによって記される。少なくとも18世紀前半には白語による曲芸の存在が確認できる。演目の多くは中国の文芸・芸能や宝巻などと共通する。

歴史的な白文の存在は文献史料や碑文などにより、1940年代には研究者に確認されていた。1950年代後半なり、ようやく白文が現代まで白族の民間社会で継承・使用されていることが確認された。1984年になり、徐琳らは『白族簡誌』(民族出版社)のなかで、白文を白族固有の表記体系とみなした。これ以降、白文は歴史的に中国周辺に存在する「漢字系文字」の一種としてみなされるようになった。現在では、その形成問題・用法・内容分析などの研究が試みられつつある。

残念ながら現在の白文研究は白語話者の研究者間で完結し、国際的な研究を進める条件を満たしていない。これまでの白文研究は白族話者の研究者により漢語に意識したり、資料の画像を示したりするだけのものが多い。このため白語話者以外の研究者が従来の研究成果をもとに、新たに白文資料の学術的・文学的価値の考察は困難である。日本でもわずかながら白文に関する研究があるものの、申請者の研究を除いて、ほとんどが漢語を介しての研究である。白文は日本の文字やベトナムの字喃などのように国家の保護や統制を受けた歴史的経験を持たなかった。またどのような語彙を訓読み・音仮名で読んだり、どのような漢字を音仮名に使用したりするかといった傾向・規則が解明されておらず、表記の地域差・個人差も大きい。単に白語に通じているだけでは分析が難しく、研究の条件・基礎が整っていない。

2. 研究の目的

本研究での具体的な作業目標は以下の二点であった。A. 大本曲の曲本を白語から直接分析・翻訳し、これまで申請者が分析を加えた複数のテキストも含め白文語彙を収集する。B. 語彙集とともに、その用例を示した用例集を作成する。

特に白文用例集の作成はこれまで世界的にも例がなく、白文解読のための基礎を確立するためには極めて重要な挑戦であった。これまで収集しえた語彙にそれぞれ例文を付して用例集(漢語・日本語での解説)を作成し、出版の形で公開した。これにより白文解読研究の裾野を広げることができると期待している。

3. 研究の方法

2016年度に出版した『大本曲『黄氏女対金剛経』の研究 雲南白族の白文の分析』のテキストより、用例集の作成を主な研究課題とした。同テキストより、語彙と用例とを国内の研究協力者と検討した上で、雲南省に赴き民間芸能者および研究機関と連携して、語彙の表記・発音・用法などについて再度確認した。今回の用例集の共著者である吉田章人氏には用例集の索引作成を担当してもらった。これにより本用例集は辞書としての利便性も確保することができた。2019年度末に、現地にて用例の最終確認を行なう予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大にともない現地調査を断念した。しかしSNSなどを利用しながら現地との連携を保ち、予定通り『雲南大理白族の白文用例集 - 大本曲『黄氏女対金剛経』を例に -』と題して、用例集を出版することができた。

4. 研究成果

【単著】

・立石謙次 2017年『大本曲『美案』研究 雲南白族白文分析』(≡は金偏に則) 広西師範大学出版社(使用言語は白語、中国語、日本語)

【共著】

・立石謙次編著・吉田章人著 2019年『雲南大理白族の白文用例集 - 大本曲『黄氏女対金剛経』を例に -』 東海大学アジア学科(使用言語は白語、中国語、日本語)

【論文】

・立石謙次 2018年「雲南省大理白族の白文表記の用法」『中国語文学会 150回例会記念 学術研究論文集』中国語文学会、2018年、25-38頁。

立石謙次 2018年「大理白族の白文の形成とその用途」『アジア遊学 231 - 雲南の書承文化 -』 101-118頁。

【学術発表】

- ・立石謙次 2019 年, *History of the Formation of the Text of the Bai People in Dali Region, Yunnan Province*, East Asian Anthropological Association Annual Meeting 2019 於大韓民国全州市
- ・立石謙次 2018 年「白族白文的形成歴史 Berp cvf berp sif nao xiep cep lif sit」(大理歴史文化特約專題講座) 於大理市中和歴史文化研究所
【その他】
- ・立石謙次 2017 - 2018 年「世界はことばでできている 【ペー語(白語)】」第 1 回~4 回
駿河台出版社 HP <http://www.e-surugadai.com/surugadai-selection/rensai04>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 立石謙次	4. 巻 1
2. 論文標題 雲南省大理白族の白文表記の用法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国語文学会 150回例会記念 学术研究論文集	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立石謙次	4. 巻 231
2. 論文標題 大理白族の白文の形声とその用途	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学 - 雲南の書承文化 -	6. 最初と最後の頁 101-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Tateishi Kenji
2. 発表標題 History of the Formation of the Text of the Bai People in Dali Region, Yunnan Province
3. 学会等名 East Asian Anthropological Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立石謙次
2. 発表標題 白族白文的形成歴史 Berp cvf berp sif nao xiep cep lif sit
3. 学会等名 大理歴史文化特約專題講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tateishi Kenji
2. 発表標題 Study of the Texts of the Bai People in Dali, Yunnan Province, China: Status and Issues
3. 学会等名 East Asian Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 立石謙次 吉田章人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東海大学文化社会学部アジア学科	5. 総ページ数 322
3. 書名 雲南大理白族の白文用例集－大本曲『黄氏女对金剛經』を例に－	

1. 著者名 立石謙次	4. 発行年 2017年
2. 出版社 広西師範大学出版社	5. 総ページ数 344
3. 書名 大本曲『美案』研究 雲南白族白文分析』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

雲南大理白族（ペー族）の歴史と文化 https://tateken001.blogspot.com
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	吉田 章人 (Yoshida Akihito)		
研究協力者	黒澤 直道 (Kurosawa Naomichi)		